教員名 雪	SEM-4-005-ky			科目名	卒業研究 (野口)						
I	予口 華世			開講年度学期	2020年度	度 前期~後期	単位数	4			
概要	3年生の課題演習で学習したことを基にして、文章・論点の整った卒業論文を書き上げられるように「る。 テーマは日本の歴史あるいは民俗・文学・考古などの周辺分野に関すること、群馬をはじめとする地域										
· · · 到達目標 · · ·	 史や地域社会に関することで、受講生が自由に設定する。 ・各自の卒業論文のテーマにそった先行研究および史料や資料を探しだす力をつける。 ・各自の選んだテーマにそった研究史を自分なりにまとめる力をつける。 ・研究史をふまえて、自分なりの問題点を見出し、それに取り組む。 ・卒業論文の全体像を見通して、目次を立てる(章立てをつくる)力をつける。 ・卒業論文の論述の中で、史料を利用して論述できるとよい。 ・研究史の検討のなかから、もしくは史料解釈のなかから、それらの検討結果を論拠として独自の学説を展開できることが理想である。 ・整合性のある論述ができることは社会人としても大事な能力である。書き上げることによってその力を養おう。 ・これらの力をつけ、内容のより深い卒業論文を書き上げることが到達目標である。 										
「共愛12の力」との	対応										
識見		自律する力		コミュニケーショ	ンカ	問題に対応する		ל			
共生のための知識		自己を理解する力	0	伝え合う力		分析し、思	思考する力	0			
共生のための態度		自己を抑制する力	0	協働する力	0	構想し、乳	実行する力	0			
グローカル・マイ ンド		主体性	0	関係を構築する	カ	実践的ス	キル				
	 ・卒論の概要・目次を作成し、全体の流れを設定する。これらを受講生は発表(プレゼン)する。 ・個別指導を中心にして、論文を実際に書く練習を行う。「はじめに」「おわりに」の書き方についても指導する。 ・執筆した内容をその都度、受講生が順番で発表(プレゼン)する。 ・完成した卒業論文については、その内容を自らプレゼンし、卒論発表会の代表者を選出する。 ・また、卒論を学生同士で読み合い、他人の卒論の内容についてもプレゼンする。 ・卒論に関する口頭試問を行う。 										
フィードバック方	・個別指導 導する。 ・執筆した内 ・完成した名 ・また、卒論	を中心にして、論文を 内容をその都度、受調 学業論文については、 途学生同士で読みる	生実際に書く 構生が順番 その内容を 合い、他人の	、練習を行う。「は で発表(プレゼン を自らプレゼンし、	じめに」「お)する。 卒論発表	らわりに」の書きた 会の代表者を選	方についても	指			
フィードバック方法	・個別指導導する。・執筆した内・完成した적・また、卒論・卒論に関す	を中心にして、論文を 内容をその都度、受調 学業論文については、 を学生同士で読み合 する口頭試問を行う。	生実際に書く 構生が順番 その内容を 合い、他人の	、練習を行う。「は で発表(プレゼン を自らプレゼンし、	じめに」「お)する。 卒論発表 いいてもプレ	らわりに」の書きた 会の代表者を選	ちについても	指			
フィードバック方 法 アクティブラーニンク 受講条件 前提	・個別指導 導する。 ・執筆した内 ・完成した名 ・また、卒論 ・卒論に関す	を中心にして、論文を 内容をその都度、受調 学業論文については、 を学生同士で読み合 する口頭試問を行う。	を実際に書く 構生が順番 その内容を 合い、他人の ラーニング	、練習を行う。「は で発表(プレゼン を自らプレゼンし、	じめに」「お)する。 卒論発表 いいてもプレ	らわりに」の書きた 会の代表者を達 レゼンする。	ちについても				
教授法及び課題のフィードバック方法 アクティブラーニング受講条件 前提科目 アセスメントポリシー及び評価方法	・個別指導 導する。 ・執筆したP・完成した4・また、卒論 ・卒論に関す	を中心にして、論文を 内容をその都度、受調 学業論文については、 該を学生同士で読みまする口頭試問を行う。 サービスラ	を実際に書く 構生が順番 その内容を 合い、他人の ラーニング た者。	(練習を行う。「はで発表(プレゼン で発表(プレゼンし、 と自らプレゼンし、 の卒論の内容につ	じめに」「お)する。 卒論発表 いいてもプレ 課題	らわりに」の書きた 会の代表者を達 レゼンする。	ちについても				
フィードバック方 法 アクティブラーニング 受講条件 前提 科目 アセスメントポリ シー及び評価方法	・個別指導で 導する。 ・執筆したア・完成したで ・また、卒論・卒論に関う が 担当者の課	を中心にして、論文を 内容をその都度、受調 学業論文については、 意を学生同士で読みら する口頭試問を行う。 サービスラ	と実際に書く 構生が順番 その内容を 合い、他人の ラーニング た者。 組み姿勢・記	(練習を行う。「はで発表(プレゼン を自らプレゼンし、 の卒論の内容につ	じめに」「おうまま」)する。 卒論発表しいてもプリー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	らわりに」の書きた 会の代表者を達 レゼンする。	ちについても				
フィードバック方 法 アクティブラーニンク 受講条件 前提 科目 アセスメントポリ	・個別指導 導する。 ・執筆したが ・完成したな。 ・本論に関す ・本論に関す が 担当者の郡 論文内容7	を中心にして、論文を 内容をその都度、受認 文学生同士で読みだける口頭試問を行う。 サービスラ は多なでは、 はないでは、 はないでは、 はないでは、 サービスラ はないでは、 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。	と実際に書く 構生が順番 その内容を 合い、他人の ラーニング た者。 組み姿勢・記	(練習を行う。「はで発表(プレゼン を自らプレゼンし、 の卒論の内容につ	じめに」「おうまま」)する。 卒論発表しいてもプリー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	らわりに」の書きた 会の代表者を達 レゼンする。	ちについても				

直接フィールドに出向いて、その専門家の話を聞いたり、貴重な史料の原本を見せていただいたりもする予定である。

*以上の授業内容は、進度・理解度などにより変更する場合がある。

Number			Graduation Thesis					
Name	野口 華世(Noguchi Hanayo)	Year and S emester	Full-year for 202 0	Credits	4			
Course 0	Based on the contents learned in "Junior Specialty Seminar I" and "Junior Specialty Seminar II", e ach student will write a soundgraduation thesis. Students are free to choose a theme related to the history and the culture of Japan or the history and the culture of a community, such as Gunma.							